

宣言10

誰もが愛着のもてるまちをつくります！

歴史や伝統文化、自然などの郷土の資源を大切に守り育て、後世に継承していくことで、子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりがまちへの誇りと愛着を持ち続けるとともに、市外在住の方にも魅力を伝えることのできるまちを創造します。

38 歴史・文化財

39 文化

歴史・文化財

- 1 歴史・文化財の理解と意識の高揚
- 2 歴史・文化財の保存・活用
- 3 歴史・文化のネットワークづくり
- 4 城下町地区の整備

1 歴史・文化財の理解と意識の高揚

施策381
歴史まちづくり課

▶現状・課題

本市では、市民が市内の歴史・文化を学ぶ市民総合大学「歴史文化学部」を開催し、独自のテーマ設定により歴史と文化財を学ぶ機会を提供しています。その結果、市民の歴史と文化財に対する意識は高まり、地域に愛着を持つ市民も増えています。

また、地域の歴史・文化をテーマとする市民主体の活動については、既存の団体に加えて、新たな市民団体が育成され、各地域、各分野における活発な活動が展開されています。

今後、犬山市歴史的風致維持向上計画（平成20年度（2008年）～平成30年度）に基づき、文化財の保存・活用を推進するなかで市民意識をさらに高揚していくことが求められています。

▶目指す姿と目標指標

文化史料館を中心に市民に向けて犬山の歴史文化に関する情報が発信されることで、地域の歴史や文化財に興味を持つ市民が増え、市内各地域において、市民総合大学の受講者を中心に歴史と文化財に対する意識が高まり、地域に愛着をもつ市民が増えています。

目標指標	単位	当初	実績値	目標値
				2022年度
◆市民総合大学「歴史文化学部」への応募者数	人	478 (2010年度)	275 (2015年度)	300

市民総合大学「歴史文化学部」への応募者の総数。歴史に興味を持ち、市民総合大学に応募する市民が増え、平成27年度（2015年度）実績値を上回る1学科100人の水準の維持を目指します。

▶施策の展開方向

1	犬山の歴史と文化財を知る・学ぶ機会の提供	市民総合大学における「歴史文化学部」の開催や市民団体とのまち歩きなどを通して、犬山の歴史や文化を教材として地域の伝統や文化を学ぶ機会を設け、地域に愛着と誇りを持つ市民を育みます。
2	文化財の保存・活用にかかわる市民団体との連携	市民団体に対する情報の提供や団体事務局への活動支援・研修などを通して、行政と市民団体が連携して文化の担い手を育成できるネットワークづくりを進めます。
3	文化財の保存・活用にかかわる普及と啓発	市内各地域に点在する文化財などの地域資源について、保存の手法や活用へのアドバイスを行うとともに「犬山市の文化財」などの出版物を活用し、文化財の普及と啓発に努めます。

▶重点事業

市民総合大学専門学部

市民総合大学「歴史文化学部」として、古代から近世にかけての犬山の歴史文化を学ぶための学科を開催します。

2 歴史・文化財の保存・活用

施策382
歴史まちづくり課

▶現状・課題

指定文化財や登録文化財の保存や伝承にあつては、その価値を維持することが求められています。現在、ユネスコ無形文化遺産であり、国指定重要無形民俗文化財である「犬山祭の車山行事」の保存・修理、登録有形文化財建造物の修理、史跡の調査や整備が、専門家などにより組織された委員会の技術指導、監修によって行われています。

一方、市内に点在し、法律等に基づく指定などを受けていない文化財については、平成9年の犬山市史編さん終了後は継続した調査研究が進んでいないため、今後、犬山市歴史的風致^{*}維持向上計画（平成20年度（2008年）～平成30年度）の推進に向けて、継続的な調査の実施が求められています。

▶目指す姿と目標指標

犬山市歴史的風致維持向上計画に基づき、歴史的資産の保存や管理、史跡・天然記念物の管理、犬山祭の伝承保存に対する補助を行うなど、市内文化財の保存と活用が進んでいます。また、犬山城については、世界遺産登録に向けた活動を推進するとともに、保存活用計画の策定に向けて調査研究が進められています。

目標指標	単位	当 初	実績値	目標値
				2022年度
◆文化財の調査実施件数	件	2 (2009年度)	4 (2015年度)	3

文化財保存のための調査実施件数。文化財を保存するため、民俗文化財、埋蔵文化財・記念物、建造物を中心に継続した調査の実施を目指します。

◆指定・登録文化財の保存・修理に対する補助件数	件	2 (2009年度)	2 (2015年度)	4
-------------------------	---	---------------	---------------	---

文化財保存修理に関する補助件数。民俗文化財、建造物の伝承保存を一層推進するため、年間補助件数の拡充を目指します。

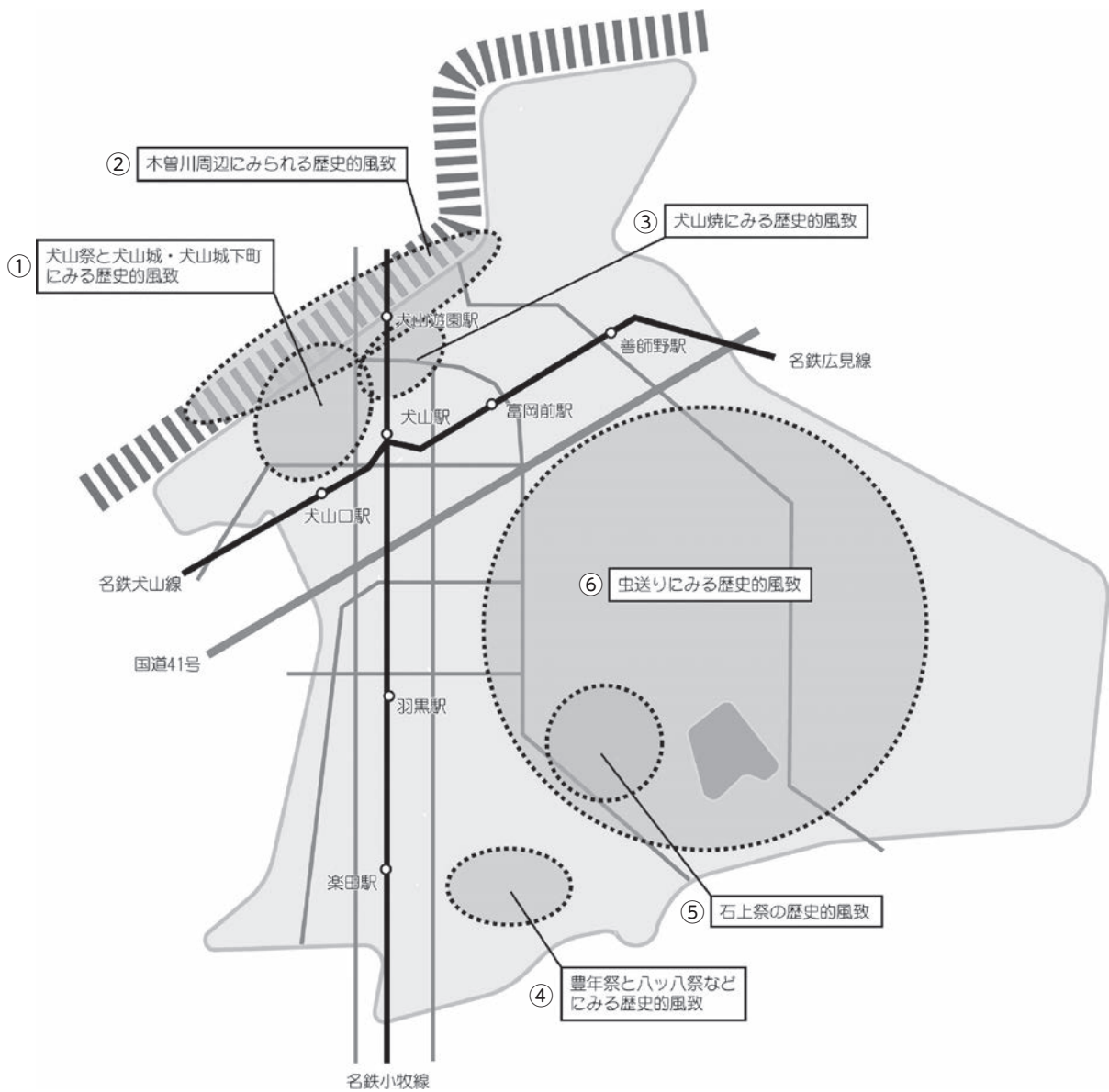
▶施策の展開方向

1	文化財の保護と調査	専門家や必要に応じて設置する専門委員会などの指導、調査などに基づき、指定・登録文化財の保存や修理、犬山城の調査や修理などを推進します。また、東之宮古墳については、整備基本計画に基づいて史跡整備を進め、未調査の文化財については、調査、収集、研究を推進します。
2	歴史的風致の維持・向上	文化財の所有者・管理者、市民・事業者、行政が連携して歴史的風致の維持・向上を図るとともに、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づく計画の中で指定された建造物や城址、堀、常夜灯などの歴史的風致の維持・向上に寄与する施設などの保存を図り、住民との協働により、施設の活用と整備を進めます。また、重点区域の追加や変更などによる計画の見直しを行います。
3	文化財の活用	文化財の保存に影響が及ばない範囲で、教育や普及のために文化財の活用を推進します。文化史料館の活動の充実を図り、「犬山城と城下町地区を結び、人と文化をつなぐ施設」としての機能を強化します。

▶ 重点事業

<p>犬山城城郭遺構調査事業</p>	<p>犬山城に関連した遺構の残存状況と城郭の範囲を確認し、犬山城城郭調査委員会の指導及び遺構調査の実施成果を基に、堀や切岸などの遺構の年代を推定できる資料を整理し、犬山城の歴史的価値をさらに追求します。</p>
<p>犬山祭の車山行事の伝承保存事業</p>	<p>犬山祭の車山行事で用いられる用具の修理・新調を計画的かつ適切に実施するために車山所有町内に対して支援を行います。郷土の誇りである伝統行事を正しく継承するための環境形成と意識醸成を進めます。</p>

犬山が維持向上すべき歴史的風致



(資料 歴史まちづくり課「犬山市歴史的風致維持向上計画」)

①犬山祭と犬山城・犬山城下町にみる歴史的風致

寛永12年(1635)に始まったと伝えられる犬山祭の車山行事が、毎年犬山城下の針綱神社の例祭として行われている。城下13町内から地域に暮らす町衆らによって、車山の組立てから曳き回し、からくり奉納、解体保管を始め、からくりとお囃子の練習や夏の懸装幕の虫干しなど、一年を通じた祭りの運営が行われる。



町衆らによって380余年の守り伝えられてきた犬山祭と、その舞台となっている国宝犬山城や城下町の歴史的なまちなみが一体となって受け継がれている。

②木曾川周辺にみられる歴史的風致

万治2年(1659)、犬山城主3代成瀬正親の庇護のもと始められた御料鶏飼から350余年、腰蓑や足半草履を身にまとった鶏匠が行う「鶏飼」は、国宝犬山城を背景とした季節を彩る風物詩として、市民の心に刻まれている。



水運の要所であって犬山城下付近では、川岸には水にまつわる安全を祈願するために建てられた神社や常夜灯が、周囲のまちなみと一体となって歴史的な風情を醸し出している。また甘露煮などの食も含め地域に息づいている。

③犬山焼にみる歴史的風致

元禄あるいは宝暦年間が始まりとされる犬山焼は、犬山城主7代成瀬正壽によって「御庭焼」として保護されたことにより現在見ることができる特徴の「赤絵」や「雲錦手」の意匠が定着した。



城下町では、犬山祭の時などに犬山焼の器に盛り付けた料理で人々をもてなすなど、町家建築物などと共に城下町の文化の一つとして守ってきている。

この伝統的技法を用いた犬山焼が現在も息づき、赤絵や雲錦手に見られる彩り豊かな装飾が、歴史的なまちなみの中で人々の目を楽しませている。

④豊年祭とハツ八祭などにみる歴史的風致

江戸時代中期より「尾張二之宮」として親しまれている大縣神社には、伝統行事が多数ある。



神輿を担ぎ、男女の厄除を祈願する豊年祭では、「天馬」と呼ばれる色とりどりの紙の飾りを付けた竹棒を、神事を終えた直後に見物客が一斉に取り合う。また8月には、茅で作られた大きな輪を八の字にくぐるハツ八祭と呼ばれる神事などがある。

大縣神社(本殿などは重要文化財)を中心に祭りの際、鳥居までの一本道には大勢の参拝者や見物人が詰め掛け、往時の隆盛を垣間見ることができる。

⑤石上祭の歴史的風致

尾張富士(277m)は、尾張平野の本宮山(293m)に高さが僅か十数メートル及ばないという悲哀を長年感じ続けてきたという言い伝えが、石上げ祭を産み出したと言われている。



市指定無形民俗文化財の「石上祭」は、江戸時代後期より連続と続いている。真夏の季節に人力で巨石を山に上げた先人の足跡は、尾張富士浅間神社本殿を起点とする参道一帯の林立する献石により今日も見る事ができる。

尾張富士信仰と人々が石に託した願いが、独特の風情を醸し出している。

⑥虫送りにみる歴史的風致

農業用ため池や里山が残る城東地区には、農家にとって大切な行事が代々受け継がれている。毎年7月中頃、水田の害虫を追い払い、豊年を祈願する「虫送り」と呼ばれる行事は、



住民らが祭文を唱えながら地区内を練り歩き、各家を訪問しながら地区の境にある川端まで来たら藁人形に短冊を付けた笹竹を立てて帰る。

この地域には五穀豊穡と虫を封じ込める神社として有名な虫鹿神社があり、虫送りの舞台ともなっている。この他にも、天道宮神明社楼門など数多くの神社仏閣が建立されており、虫送り行事とともに農村集落での民間信仰に関わっている。

3 歴史・文化のネットワークづくり

施策383
歴史まちづくり課

▶現状・課題

平成24年度（2012年度）の文化史料館リニューアルオープンに伴い、犬山城、文化史料館、旧磯部家住宅、どんでん館、旧堀部家住宅をはじめとした各歴史・文化施設の役割の明確化と相互のネットワーク化が求められています。

また、市民総合大学「歴史文化学部」は、毎年多くの人々が受講しており、卒業後の自発的な活動を一層推進させていくため、卒業者の人材の育成と活用が求められています。

▶目指す姿と目標指標

犬山城、文化史料館などを拠点として歴史と文化のネットワークが構築されています。また、市民や学生の参加のもと、市内各地域で歴史や文化をテーマにした市民グループが組織され相互交流が行われています。

目標指標	単位	当初	実績値	目標値
		2009年度	2015年度	2022年度
◆歴史・文化施設の自主活動事業	回	1 (2009年度)	27 (2015年度)	30

歴史・文化施設を会場とした市民団体などの自主的な活動の実施回数。市民の歴史や文化財に対する意識を高めるため、活動回数の増加を目指します。

▶施策の展開方向

1	歴史・文化のネットワークづくり	「犬山」固有の歴史的・文化的資源をネットワークで結んで相互にかかわりのある地域資源としてその価値と魅力を発信することにより、地域を愛し、郷土に誇りを持てる人材を増やします。
2	文化史料館を拠点に情報発信	文化史料館で、犬山城と城下町地区を中心とした歴史文化に関する情報発信を行うとともに、企画展示や案内機能の充実を図ります。
3	公益財団法人犬山城白帝文庫との連携	犬山城と城下町地区の情報発信を行うため、旧犬山城主成瀬家にまつわる文物の保存・管理や研究などを行っている公益財団法人犬山城白帝文庫と連携した事業を実施します。
4	犬山祭保存会との連携	ユネスコ無形文化遺産であり、国指定重要無形民俗文化財である犬山祭の伝承保存と普及啓発のために、保存会との連携のもと記録を蓄積し、適切な保存修理と公開を促進します。また、行事の継承や保存会運営に対する支援を行います。
5	各種NPO・市民団体との連携	文化財の保存や普及啓発、町並み保存、歴史文化探訪などの活動を行っている市民グループと連携して講座やイベントなどを開催し、次世代への歴史文化の継承を図ります。

4 城下町地区の整備

施策384
歴史まちづくり課・都市計画課・整備課

▶現状・課題

城下町地区では、歴史的資産を活かしたにぎわいのある安全で暮らしやすい町の再生のため、犬山城前広場の整備や電線類地中化・道路美装化などを行ってきました。このような取り組みの結果、近年では、多くの人たちが城下町地区を訪れるようになりました。

一方、歴史的建造物の保存については、維持管理に要する手間や費用の増大、跡継ぎの不在という理由から、取り壊されて空地になり、その後建てられた建築物が城下町地区の景観にそぐわない、といった事例も出てきています。加えて、防火対策や歴史的風致*の観点から問題となっている区域内の老朽化した公共施設の移転も課題となっています。

そのため、住民が安全・安心で、にぎわいと潤いを感じられる良好な住環境の形成を図りながら、城下町地区の歴史的景観を保持した町並みを形成していく必要があります。

また、地区外からの車両や地区内における歩行者の動線を地域住民と協議しながら検討を行い、適切な誘導を図っていくことが求められています。

▶目指す姿と目標指標

歴史的建造物が保存され、歴史や文化などと人々の生活が調和する歴史的風致を維持し、住民は安全・安心やにぎわいと潤いを実感でき、来訪者は利便性や快適性を実感できるまちとなっています。

目標指標	単位	当初	実績値	目標値 2022年度
		◆伝統的建造物の修理・修景（累計）	件	—

伝統的建造物の修理・修景に関する助成件数。伝統的な建造物については、犬山市歴史的風致維持向上計画に基づく指定を行い、長期的な視点で計画的に修理・修景を行うことを目指します。

▶施策の展開方向

1	城下町地区の町並み環境を整備	電線類地中化や道路美装化などにより良好な道路環境の整った城下町地区は犬山の歴史文化を象徴する風情のある地区であるため、景観などに配慮した住環境の整備を推進し、住民にも来訪者にも配慮した整備や車両・歩行者動線の望ましい交通体系の確立を計画的に推進します。
2	伝統的建造物の保護・保存	伝統的建造物の保護の手法として伝統的建造物群保存地区指定などを検討し、修理・修景などの基準を定め、防火対策を促進して城下町地区の伝統的な町並みを後世に伝えます。また、地域において歴史及び文化面から価値の高い建造物を文化財として登録・指定し、後世への継承を図ります。
3	歴史的風致形成建造物の指定	景観や都市計画と調整を図り、歴史的風致形成建造物の指定などを通して、城下町地区の歴史的風致の維持と向上を図ります。

▶重点事業

伝統的建造物整備活用事業	国登録有形文化財の旧堀部家住宅の修理を行い、既存の旧磯部家住宅や中本町まちづくり拠点施設などと連携を図り、伝統的建造物の活用を進めます。
伝統的建造物の保存・修理・活用	「歴史都市犬山」の実現のため、伝統的建造物を修理・修景し、伝統的建造物群保存地区指定などを手法の一つとして検討します。また、伝統的建造物の保存計画の策定に向け、内容を検討し、国の補助制度を活用して、伝統的建造物の修理・修景を進めます。



修理事業を実施した新町車山蔵



修理事業を実施し活用された事例 (奥村家住宅)



修理事業を実施し活用した事例 (林家住宅)



電線類地中化・道路美装化前の本町通り



電線類地中化・道路美装化後のにぎわいを取り戻した本町通り

文化

- 1 文化活動の振興
- 2 新しい文化の創造と活動の支援

1 文化活動の振興

施策391
文化スポーツ課

▶現状・課題

文化芸術振興基本法の第1条には「文化芸術が人間に多くの恵沢をもたらす」と明記されています。これは、文化芸術の振興が、心豊かな国民生活をつくり出し、活力ある社会の実現に寄与することを示しています。

本市は、昭和57年（1982年）に市民が芸術文化に親しむための拠点として犬山市民文化会館を建設しました。開館以来、市民に優れた舞台芸術を鑑賞してもらうため、自主事業としてコンサートや演劇などの公演を実施してきました。平成27年度（2015年度）から公演を買い取る自主事業の縮小を行い、その代わりに平成28年度からは、市民文化会館が少しでも利用しやすくするよう、市との共催事業の要件を緩和しました。また、市民文化会館に併設する南部公民館では、市民の絵画や書などの創作作品を展示するギャラリーとしての活用も進められています。

今後は、施設の老朽化が懸念されることから適切な点検・修理や保守・管理を計画的に行い、市民が利用しやすい芸術文化の拠点施設として維持管理していく必要があります。また、多くの市民が芸術文化に親しみ、市民自らが文化芸術活動に積極的に取り組むことができるような環境づくりも求められています。

▶目指す姿と目標指標

市民文化会館を中心として、優れた舞台芸術が開催されるとともに、市民の自主的な文化芸術活動が展開され、多くの市民が文化芸術に親しみ、心豊かに文化的な生活をしています。

目標指標	単位	当初	実績値	目標値
		(2009年度)	(2015年度)	2022年度
◆自主事業の鑑賞・参加者数	人	4,822 (2009年度)	2,354 (2015年度)	3,000
◆市民文化会館の利用者数	人	40,545 (2009年度)	50,135 (2015年度)	45,000

自主事業を鑑賞及び参加した市民の年間延べ人数。平成27年度（2015年度）実績値から約700人増を目指します。

今後は減少が見込まれますが、当初目標値の維持を目指します。

▶施策の展開方向

1	自主事業の充実	市民参加型事業として既に行っている市民芸能祭や市民音楽祭、文協まつりなどを充実するとともに、市内や近隣市町で活動する団体やサークルとの共催事業を実施します。
2	市民文化会館施設の充実	市民文化会館の施設の点検・修理や保守・管理を計画的に行い、芸術文化の拠点として市民が利用しやすい施設として充実を図ります。
3	文化活動の場の確保	多くの市民が文化活動に参加できるように、市の施設（公民館・市庁舎など）を活用した市民ギャラリーや市民展などの充実に努めます。

▶重点事業

文化活動の場の確保	多くの市民が参加できるような文化活動の場として、ギャラリーや展示スペースを確保します。
-----------	---

2 新しい文化の創造と活動の支援

施策392
文化スポーツ課

▶現状・課題

本市では、犬山市文化協会と特定非営利活動法人犬山市音楽文化協会を中心として様々な文化活動が実践されています。犬山市文化協会は46団体、560人で構成され、市民展、市民芸能祭、文協まつりなど数々の事業を主体となって実施しています。

また、特定非営利活動法人音楽文化協会は9団体、227人で構成され、市民音楽祭を毎年開催するとともに、定期演奏会や各種大会・行事を展開しています。

しかし、文化活動団体の会員は高齢化が進み、年々会員数も減少しているため、若い世代への会員拡大を図り、犬山の新しい文化の創造と活動の活性化を促していくことが求められています。

▶目指す姿と目標指標

犬山市文化協会や特定非営利活動法人犬山市音楽文化協会が若い世代の会員を増加させ、自主的な新規事業を展開するなど、市民が主体となる新しい文化活動を展開しています。

目標指標	単位	当初	実績値	目標値
				2022年度
◆自主的活動団体（団体数）	団体	73 (2009年度)	55 (2015年度)	55

犬山市文化協会、特定非営利活動法人犬山市音楽文化協会に所属する団体数。平成27年度（2015年度）実績値の維持を目指します。

◆自主的活動団体（会員数）	人	1,250 (2009年度)	787 (2015年度)	800
---------------	---	-------------------	-----------------	-----

犬山市文化協会、特定非営利活動法人犬山市音楽文化協会に所属する会員数。平成27年度実績値の維持を目指します。

▶施策の展開方向

1	自主的文化活動団体の育成・支援	犬山市文化協会・特定非営利活動法人犬山市音楽文化協会など、既存の団体の活動を充実させ、市民劇団・サークルなどに活動の場を提供します。
2	犬山らしさのある文化の創造	市民が参加する芸能祭や市民ギャラリーをはじめ、豊かな自然、歴史に根ざした犬山らしさのある文化を創造する機会や場を充実します。



犬山市民展の様子